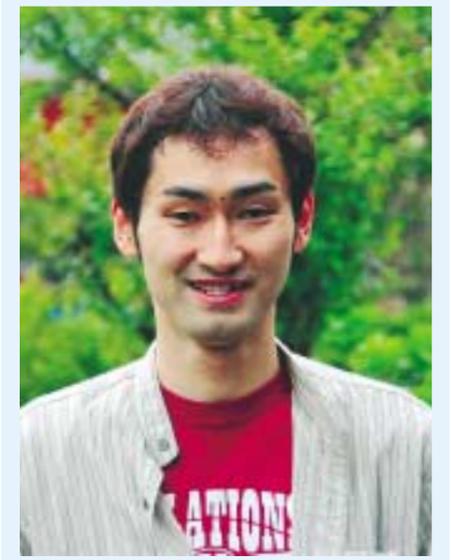


青春ing



みんなの笑顔に勇気をもらっています！

水谷 芳 充さん(27) ■村岡町浄土寺

「みんなの笑顔が大好きです」と、話す水谷芳充さんは、市内の障害者グループ『4・8フレンド』でのボランティア活動で、楽しいひと時を過ごしています。

「とにかく、みんなの明るくて前向きなところが僕自身に勇気を与えてくれます」と、この活動を続けている理由を話す水谷さん。最初は障害者との交流に対して少し抵抗があったそうですが、

すが、「今は、この活動を通じて自分を変えることができたことに感謝しています。」と、目を細めます。

先日完成した福祉健康センター「すこやか」についての感想をお尋ねしたところ、「もっとたくさんの方が、障害者とふれあう機会を持てる場所になるよう自分も協力していきたい」と、これからの活動にますます意欲をみせる水谷さんです。

すこやかな心をたいせつに

三 寄 靈 証(みさき れいしょう)さん(51) ■本町3

本町にある西宮寺の住職の三寄さんは、青少年の非行問題がクローズアップされている今こそ宗教的な情操教育が必要と感じ、平成3年から、日曜学校(現代版寺小屋)を開いています。

この日曜学校を通して、「子どもたちに思いやりの心を育て、命の尊さや大事さを伝えたい。」と語る三寄さんは、西本願寺の少年連盟の役員をしていることから、青少年の健全な育成には日頃から強い関心をもち、その対応について考えているそうです。

日曜学校は、毎月第2土曜日に西宮寺の本堂で開かれ、約1時間半の間、お焼香の仕方や合唱礼拝などの仏事作

法を教えたり、子どもに分かりやすい法話をしたり、歌やゲームで楽しむなど、子どもが集団で活動ができる場の提供に努めています。

日曜学校に出ている子どもらのおじいさんやおばあさんからは、「この頃、孫が『ありがとう』『もったいない』『おかげさま』という心を少しずつ理解できるようになって嬉しい」との声を聞くことがあるそうで、これを励みに、今後この取り組みを続けていきたいとのことでした。

すてきに人生



ガッツでいこう！

出会い ふれあい

勝山ファイヤーズ

少年ソフトボールチームの県のレベルの試合を見に行った芳野、元町、遅羽の各子供会育成会メンバーがレベルの違いを痛感し、結成して作ったチーム「YMO」。今年からチーム名を「勝山ファイヤーズ」と改め、新たなスタートを切りました。

メンバーは総勢16人。勝山では、唯一学校区を越えて結成された同チーム

は、親子のふれあいも大切にしながら、選手の育成に励んでいます。そんな家庭的な雰囲気を感じてほしいと、小学校を卒業してからも練習に顔を出して手伝うOBの姿もみられ、ソフトボールの技術以外のたいせつなことも学びつつあります。

ソフトボールの底辺拡大に取り組む監督の日谷孝治さん(元町)は、ソ

フトボールの練習や試合を通して、「子どもたちには、がむしゃらなモットーに、悔しいときには泣いたり、試合に勝ったときは大声で共に喜び合ったりすることで、子どもらしさを身につけてほしい」と、その思いを話してくれました。



最後に、「ソフトボールがしたい人、好きな人は、一度練習を見に来てください」と語る監督の口調には、力がこもっていました。

仲間 GROUP



がんばれ元気



いっしょに楽しく走ろうよ

米 蔵 由 夏さん(10) ■昭和町2

米蔵さんは、勝山Jrランナーズに所属するお兄さんの走る姿を見て、同じチームで走り始めました。

チームに入って約1年がたちますが、この間にめきめきと力を付け、2kmのタイムを1分半近く短縮したそうです。成器西小学校のマラソン大会では、これまで学年女子で10番台だったのが、2位の成績を収めることができたお母さんもビックリするほどの成長ぶり。

好きな科目は国語。また、幼稚園の頃からピアノも習っている米蔵さんは、ちょっぴりはにかみ屋さんの5年生です。「将来は、全国大会に出場し、長距離の種目でよい成績を取りたいです」とかわいい笑顔で答える米蔵さんは、「もっと多くの友達と一緒に楽しく走りたいため、勝山Jrランナーズに入ってほしい」とチームへの勧誘もはっきりとしてくれました。